
■ □ らくがきノート □ ■

とーよー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

■ □ らくがきノート □ ■

【Nコード】

N3076Z

【作者名】

とーよー

【あらすじ】

とーよーのらくがきノート

《ハムスター》

今まで合計5、6匹飼った。もう、全員死んでいる。天国で俺を応援していると思う。

あれは、非常にカワイイ。
毎回、口の中に入れていた。カワイ過ぎると、口の中に入れてなくなる。

口から出すと、また、カワイイ顔をしている。

また、口に入れる。

アクビをしているのがカワイイし、ひまわりの種を、沢山口の中に入れて、自分の好きな所に持って行くのがカワイイ。

しかし、死んだ時が可哀想なので、動物は飼わない様になっている。

しかし、ハムスターはカワイイのである。

《映画》

映画を撮りたい。

ホラーが良いと思っている。世にキミヨ的な、短い話を沢山入れるパターンで攻めたててやろうと思っている。全10話からおりだす、不条理にも、恐ろしい話をやってやろうと思っている。

ただ、オバケは全部俺がやろうと思っている。1話だけ俺が主演なので、その時はお母さんがオバケをやればいいと思っている。

お母さんは良いヤツなので、きっと参加してくれると思う。

台本は俺が書く。

「ハイ！カット！」の（カチン！）のヤツも俺がやりたい。

でも、俺が出るシーンの時は（カチン！）と、やって、すぐに自分の位置にスタンバラなくてはいけないので、忙しいと思う。

主題歌は俺が唄う。

2番まで唄おうと思っている。ハーモニカのソロも入れたい。

映画を撮りたい。

でも、色々、大変である様には思った。

小説とは、なんと楽なものだろう。カメラも、機材も、人件費も、場所代もいらないどころか、家から1歩も出る必要もなく、1人で、家で、自分の部屋で、作る事が出来るのだから。

ミスっても役者に注意をする必要もなければ、撮り直しで、無駄な時間を掛ける必要もない。

消去ボタンで、いくらでもストーリーは変更可能である。

しかし、映画は撮ってみたい。とーよー映画を世界に知らしめたい。早く、世界のとーよーになりたい。

でも、英語はハローとかしか分からないので、とりあえずは日本語で頑張ってみようとは思っている。

《S M A P》

スマップに入ろうと思っている。

ただ、ビストロの時、チーム人数が、3対2になってしまうので、そこを悩んでいる。

まさか、ナカイ君と一緒に司会をするわけにはいかないが、キムラ君、カトリ君、トーヨー君チームに、クサナギ君、イナガキ君ペアが勝てるわけではないので、まだ、そっちの方がいいかなー等とは思ったりしている。

昔はスマップのメンバーはもう1人居たが、レーザーになってしまったので、ソロソロその穴を誰かが埋めなければいけないわけで、それなら、まあまあ顔がカッコイイ方の俺がという気持ちで、一筆書かせて頂いている。

ナカイ君の司会業や、キムラ君のドラマ、クサナギ君のジーンズなど、それぞれの個性をかき消さず、また、自分自信もこれまでのスマップをさらに良い形へと導いてゆけたら、これに勝る喜びはない。

やはり、これからのアイドルは、歌やダンスだけではなく、バラエティーなどでも、ドンドン、自分を前に出してゆかなければならないわけで、そこで勝ち上がったジャニーズ最強チームS M A Pだからこそ、後から加わる者としては幾分かのプレッシャーを感じている。

無論、世代的には、嵐や、KAT-TUNに入った方が自然なのだろうが、それは難しい様に思った。

嵐は非常に仲が良い。ジャニーズメンバー特有の、ギスギス感が無い。ーが、しかし、逆に、あれだけ、チームワークの出来上がったメンバー内に加わるのは難しく、溶け込んでいけるかが不安である。

そこら辺は、サクライ君や、ニノミヤ君が、フォローしてくれるかもしれないが、マツジュンと喧嘩にならないかが不安であり、アイバ君が「やめろよー」等と言って、間に入ってくれば助かるが、オオノ君は何も言ってくれない様な気がする。

でも、それは、逆に、俺がメンバーに入る時も「まあ、べつに、いいんじゃない」くらいの感じで認めてくれそうであって、そこを考えると、嵐が良い様には思えるが、やはり、あの、完成されたメンバー内に食い込んでいくのは難しそうであり、それならKAT-TUNはいかなものか。ーと、考えてみよう。

…うん。

これは、いいかもしれない。

スマップのメンバーがレーサーになります事件同様、KAT-TUNはアカニシ君の穴を埋めるという意味でも、協力出来る様には思った。

ただ、アレだけのイケメンメンバーに入ってみるのは、いかなものだろう？

ハードルが高い。
俺の旨味が無い。

こうなったら、タッキー&ツバサ&トーヨーにしまっても良いが、それなら、キンキキッズ2にし、堂本とーよーになった方が楽しそうだし、TOKIOのハーモニカ担当をしても良いし、思い切ってV7にしまっても良い。

どこにでも、食い込んでいけるスペースはあるが、とりあえずSM APに入ろうと思っている。

《メモリカード世代》

ゲームは好きである。

一時期はファミコン、スーパーファミ、ロクヨン、DS、PSPに、プレイステーション1、2と、メジャー所はすべて揃えていた。

メモリーカードの開発によって、今でこそ、セーブが消えてしまうといった最悪極まりない事故は、ほぼ壊滅状態となったが、俺がガキの頃なんてのは、そりゃー、ドラクエの差し込まれたスーパーファミ本体を、恐る恐る動かしていた世代であって、協会で「ゲームをやる」を選び、リセットを押しながら、ゆっくりスイッチを切っていた世代であって、近くでお母さんが掃除機を掛ければ、コンセンスト問題が気になった世代であって、1発で機能しなかった後の、カセット内部への息の吹き掛け後のドラクエのスイッチングのドキドキ感や、あの、最悪のセーブが消えましたよメロディー、または、それさえも無く「ぼうけんのしょうをつくる」しか表示されなかった時の、あの放心状態…その後…数日は、ドラクエの話題にすら、触れたくないといった疎外感など、セーブの大切さを何1つ分かっていない今の小、中、学生、すなわち、メモリーカード世代!…なんてのは、そりゃー、俺達スーパーファミ恐る恐る世代からすれば気軽だと考えられても致し方ないわけである。

PS2、もしくは3を、プレイ中に、少し邪魔だな〜くらいのワガママな理由で、縦にしたり、横にしたり、挙げ句の果てには、DV

Dデッキに乗せてみると、俺達の時代には考えられなかった事である。

有り難さを噛み締める。

感謝の気持ちを忘れるな。

そして、バカにするのもいい加減にしておけ。

モンハンや、鉄拳のグラフィックを当たり前だと思ふな。

変にリアルを追及し出した頃の、プレスティー辺りの、不自然なカクカク感や、初期のバイオバザードが下手なヤツがプレイした場合いの、壁に沿った変な動きを知っているのか！

リアルなグラフィティーに、細かい開発が追い付いていない頃の、体が半分壁にのめり込んだ日々を経験していないだろ！！

ゲームボーイの1番初めの、白くて、大きいヤツを、バカにするな！！！！

パスワードをノートに書く努力を知らない輩に知った様な口を聞かれてたまるか！！！！

古い人間だと言われても仕方がないが、個人的にはwiiをゲームだとは認めてはいない。

あーいった、自分の動きをリアルに体感出来るといった様な、余計なシステムは認めるわけにはいかない。

コントローラーが縦でも、横でも、さらには持つても使えるといった様な、余計な部分でのバリエーションをひけらかすな。

任天堂はマリオにばかり頼るな！ゴルフやレース、はたまた！テニスなどをさせるな！

あいつは、横スクロールで、キノコや金を取りながら、時間に追われ、右へ右へと進んでゆくのが基本であって、決して、プロペラで飛ぶ様なヤツでは無かった。

任天堂もそうだが、メモリーカード世代に向けてこれだけは書いておく。

インベーターからやり直せ。話は以上である。

《カラオケ》

カラオケは好きだ。

そもそも唄う事が好きである。
俺は大体唄っている。

最近のカラオケは、3時間パック、500円的なものも多いので非常に良い。

システムもたいへん良くなった。昔の様に、分厚い、タウンページ的な本から探す必要はない。

お気軽、お手元、コンピューターで、ピピッとやれば、ピピッと出るので、非常に、便利に、良くなった。

カラオケを作った1番エライ奴を褒めておきたいと思う。

ーが、しかし、余計なものも大分増えた様には思う。

普通に画面の文字を見ながら唄いたいののに、文字が動き出すシステムは余計でしかない。

「ひー、ろー、いー、うー、ちゅー、うー、のー、かー、ずー、あー、るー、ひー、とー、つー」と、1つ1つが旗になっていたり、寿司になっていたり、はたまた、Tシャツを着た人間達が順番に走

り出したりーと、余計な事はしないで頂きたく、あーいったものは、非常に読みにくいだけの話であって、2番はまったく唄えなかったりする。

また、そういった変な部分で、個性を発揮しようといった考え自体が、そもその間違いであって、グリーンのキセキは、歌が始まるまでの野球のドラマ的なものはいらないのである。

画面関係に力を注ぎたい気持ちも分からなくはないが、それなら、新しいものではなく、過去のものを見つめ直して欲しくは思う。

歌と絵がマッチングしていない問題の改善を早急に要請しておく。

バラードを唄っているのに、モップを持って踊り出すヤツ。

アニメソングなのにユニークな雰囲気でチンピラに終われるミニコント。

そして、曲に、ドラマの長さが追いついておらず、古めかしい恋愛ドラマが2週目に突入するといった様なトラブル、ナドナド、とりあえず、曲に対する映像へのマッチングリメイクが成されておらず、あーいったものを、もっと、修繕出来れば良くなる様には思った。

マイク問題にも一筆投じさせて頂くが、2つのマイクスイッチを入れた場合いの、キーンっとなってしまう問題を解決しなければならぬわけ、あれは友達と1ページずつ唄うパターンの際に、自分の番ではない時の、スイッチを切り、付け、切り、また、付け、と、非常に忙しく、ついでに、食べ物メニュー問題も片付けてはおくが、そこに関しては単純に、値段の高さのみに目を向けさせて頂き、フ

ライドポテトの400円とはなんだ！コーラの260円とはなんだ！ポッキー300円等はバブルの余韻の現れでしかない！…と、書いておきたいと思う。

そして！！部屋の明るさ問題に関しては！プライバシーを配慮するという意味でも、コチラで調整が出来る部分は良いし、あれがあるからこそ、ラブホ代のないアベック達は、多少のお楽しみが出来るわけではあるのだが、ただ、トイレに行ったあとの、自分の部屋番号ウツカリ忘れ事件からの、テンパリ部屋探しの、関係ない奴の部屋をマジマジと見なくてはならない事件からの、スモーク貼られ問題からの、オデコをガラスに付けます問題からの、しかめっツラ問題からの、知らないヤツと、お目めが合っちゃう問題が起き、ここまでの、ようやく違う部屋と分かった時には、すでに中では、笑い者問題になっているわけである。

これはいけない。
どうにかしたい。

また、カラオケ内での他人との接触という意味では、隣の、部屋の、カベ叩き問題は、暫し発生する自体であって、俺、とーよー、個人の場合、1度それが行われると、歌よりソチラに夢中になっており、気付くと3時間パックの内、2時間程度を持っていかれたりしている。

世の中には様々な問題がある。焦る必要はない。大きな事より、小さな問題をコツコツと、継続的に、片付けてゆく力こそが、明日の日本を変えてゆくのです。

《コーラ》

世界1好きな飲み物である。

シュワシュワ感がたまらない。酒はまずい。ビールは苦い。のどごしーとか言わないで欲しい。のどごしはコーラの方が勝っている。

すぐに、おばあちゃん的なヤツらは「コーラは骨が溶ける」ーといった説を言いたがる。

コーラを悪く言うのは許さない。ファンタだって、シーレモだって、同じくらいに骨が溶ける。なぜ、コーラばかりを骨が溶ける代表の様に言いたがるのか分らない。それに、あんまり、溶けないとも思う。俺は昔っからいっぱい飲んでいる。骨が溶けた事はない。今もある。骨があるから、指が動く。指が動くから、携帯電話のボタンが押せ、文字が打てるのであって、肉だけならば、フニャフニャなので、作家には向いていない様に思った。

小5、小6、辺りで、一時シーレモに走った事がある。その後ライフガードを覚え、また、コーラに戻って来たといった感じである。

それから、ずっとコーラだ。

俺はコーラが好きなのだ。

《天皇陛下》

天皇陛下になりたい。

ただ、なれない。
才能は関係ない。
実績も関係ない。
運だけしかない。
不利な様思う。

どうすればなれるのかは分からないし、なる方法がないのだ。

求人雑誌には載っておらず、だから、ニートを続けているという部分はある。

天皇陛下の募集があれば、すぐにでも出向くつもりだ。

しかし、なかなか、大変な様には思った。

「バンドを組みたい」とかい出せない様な気がする。

音楽は三味線やバイオリン的なものしか許されない気がする。

パンクロックやヘビメタは許しが出ないと思った。

ジイ的なヤツに「坊っちゃん、そんな野蛮な音楽はいけません。父上が知ったらなんとおっしゃるでしょうか。モーツァルトを、お聴

きなさい」と、言われる気がする。

テレビも若手のコントや漫才は許されないと思う。

落語を堪能するくらいが最高のエンターテイメントとの触れあいであり、家出とかは絶対に許されない様に思った。ご法度だと思う。やってもすぐにバレると思う。

「あ！天皇陛下だ！」—みたいになって、SP的なものが連れに来るのだろっと思う。

愛子さまは可愛い。

可愛くはないが、ブスクレている部分が、非常に可愛く、あれはブサカワの一種だと思う。

全然ニコやかさが無い。

ひねくれている。

無表情で、愛想がない部分が可愛いのである。

マサコ様は美人である。

離婚したら付き合いたいと思う。

旦那さんは大した事ない。

喧嘩も弱そうだ。

車に乗り、ゆったり、良さ気な、雰囲気、右手を振れば、仕事は完了 くらいの考えが甘っちょろく、ボクシングとかを習えば良い様には思った。

ただ、国家権力的なものは、有ると思うので、あまり悪く書くと、日本に抹殺される恐れがあり、そこまでは悪く書かないではいようとは思う。俺はココラ辺の見極めがナイスである。

アメリカに戦争を仕掛けたりはしないので、次の天皇陛下には是非、俺を起用してくれたら嬉しく思う。

ただ、弱そうな国はドンドン潰し、日本を大きくしようとは思う。

それは日本の為にもそうしようと思う。もっとアメリカと仲良くしなくてはいけない。

とりあえず、オバマの直アドは無理であっても、サブアドくらいは知っておかなくてはならず、絵文字を使い、世界発展の話題を軸に潰して欲しい国を、それとなく、吹き込んでいけば良い。

北朝鮮は危ない。

ミサイルを撃って来た。

当たりそうだった。

当たったら死ぬので、そういうのは止めて欲しい。

《眠い時》

マックスに眠い時は最強に眠い。

5時間目に起こりやすい。

ガクーンとなる。
ビクーンとなる。

いっしゅん、崖から落ちる感じになってしまう。

あれは床屋さんでもなる。

帰って爆睡しようと思定を立てるが、帰った時にはすでに全く眠く
なかったりする。

眠さの時間は操れない。

どうしようもない。

コタツで寝たい。

でも「布団で寝ないと風邪ひくよ」という、お母さん世代の決
め台詞がある為、なかなか思い通りに、コトは運ばない。

譲る部分は譲らなくてはならない。

まったく困ったものだ。
俺はコタツで眠りたい。

そもそも「コタツで寝たら風邪をひく」といった様な理論はどう考えても成立せず、きつと…「夜中に爪を切ると親の死に目に会えない」くらいのテンションで作られた言葉だと思う。

コタツで寝ても風邪はひかない。逆に治る。布団より暖かいのだから、そりゃー治るに決まっている。

眠い時はコタツで寝ればいいのである。

《占い》

べつに、信じてはいない。

めざましテレビの、かに座が何位なのかは気になったりする。

ラッキーアイテムの赤い靴下等は大体持っていない、なので、対処しきれていない。

たまに聞くのが「良い事は信じるけど、悪い事は信じない」と、そんなに、都合の良い考え方も出来ないながらに、かに座が1位の時は、ウキウキ気分になってしまう。スキップをしてしまう。

ビリの時は…「オマエ等ゴトキに、かに座の順位を決められてたまるか!」と、いった気持ちになってしまう。

どうやら、俺こそ、都合の良い人間の様である。

《イベント》

クリスマスだの…。

大晦日だの…。

お正月だの…。

とりあえず、12月の終わりから1月の初めに掛けて、片寄り過ぎである。

大晦日とお正月は仕方ないにしても、なぜ、クリスマスまでもが、そんなに近い日付けで行われなければならない。

キリストが死んだ日にちなど、どーせ嘘なのだから、真ん中の6月辺りに食い込ませてしまえばいいではないか。

なにを、12月24日といった様な、12月の後半ばかりを忙しくギョウギョウ詰めにしてしまったのか分からない。

バランスが悪い。

考えた奴は誰だ。

ぶっ飛ばしてやる。

正月を迎え、あけましておめでとございますー等と、言われても、

何がめでたいのか、分かった事もなければ、オセチや、ゾウニや、年越しソバを、無理して食う必要もないのであって、カズノコなんてもんは、1年通し、毎日、美味しい。

全体的に、今回は特別ですよ…的な雰囲気はいらないのである。

まあ、日にちの問題もあるが、そんな事より、それらに釣られ、色々やりだす人間の方に、バカ差加減を感じてしまう。

クリスマスの予兆が長い。

12月を少し過ぎれば、スーパーマーケットではジングルベルが流れだし、定員さんはサンタの帽子を被り出す。

俺は大人なので、全員偽物だと知っている。

別に、サンタに、成りきった所で、普段と変わらぬレジ打ちをされれば話にならないわけで、そこは、魔法の演出を加えるなり、買った品物が宙に浮くなり、一工夫加えて頂きたい。

26才になった今現在、恋人のいないクリスマスもそうだが、お年玉を貰える年齢でもないので、正月も大して楽しみではない。

良い年越しを。

《AKB》

特に熱狂的なファンというわけではないが、トモちゃんがカワイイ。

他は名前も覚えていない。

そのくらいに、トモちゃんだけを、カワイイと思えてしまう。

多少、Sっぽいというか、ヒネクれているというか、ムスツとしているというか、ズケツとしているというか、ナントナクの尖りが見え隠れしており、そこが非常に可愛いのである。

愛想笑いが下手である。無表情である。
ツンとしている。キュンとしてしまう。

キャピキャピの、いかにもアイドル的な人物は、どうも、昔から、好きにはなれない。

ちょっとクセのある様な人間の方を好きになってしまう。

俺自身は、今現在、地デジってしまい、変なウィルコム携帯以外からの、電波を受け取る事の出来ない人間になってしまっではいるが、果たして、あの、スーパービックアイドルグループの中で、ちゃんとやっていけているのかどうか心配である。

ヤンマガのカラーページには載っていた。買ってしまった。

立ち読みでは済まされる可愛さではなかった。買ってはみたが、インタビュー的なものや、コメントチックなものは掲載されていなかった。状況は分らない。もしかしたら、AKBを辞めてしまったのかもしれない。ソロかもしれない。それでもいい。俺は好きだ。

しかし、多分、付き合ったりは出来ないと思うので、早目に諦めようとは思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3076z/>

■ □ らくがきノート □ ■

2011年12月31日05時46分発行